



■京都の未来を考える懇話会事務局
(京都商工会議所企画総務部) TEL 075 (212) 6402 FAX 075 (255) 1985 URL <http://www.kyo.or.jp/kyoto/>

Kyoto Vision 2040
京都ビジョン2040
— 30年後の京都の姿 —



京都の未来を考える懇話会



目次

■はじめに	1
■京都ビジョン 2040 世界交流首都・京都へ	2
世界の文化首都・京都	4
大学のまち・京都	5
価値創造都市・京都	6
交流の好循環を支える地域基盤	7
■メンバーに聞く	
京都力の源泉はクロスオーバー	山田 啓二 (京都府知事) 8
融合の力で未来を拓け	門川 大作 (京都市長) 10
「知恵の生態系」から革新を	立石 義雄 (京都商工会議所会頭、京都府商工会議所連合会会長) 12
知識と知恵、そして心を育む	松本 紘 (京都大学総長) 14
付加価値高め新たな魅力創出	柏原 康夫 (京都府観光連盟会長、京都市観光協会会長) 16
伝統が培った京都スタイルを発信	池坊 由紀 (華道家元池坊次期家元) 18
未来のため「いま」の努力を	白石 方一 (京都新聞社会長兼社長) 20
■歩み	22
■3年間の議論のテーマ	24

シンボルマーク

明るい未来を見つめる2つの目と、生命の根源である樹木をモチーフに「京」という文字をシンボル化し、京都の未来を表現しています。



はじめに

私たちは3年前の2010年4月、「京都の未来を考える懇話会」を立ち上げました。時代が大きな転換期を迎えている中で、30年後の京都の「ありたい姿」(ビジョン)をさまざまな角度から語り合い、オール京都で府民、市民と一緒にめざしたいと思う京都の未来像を描こうと考えたからです。

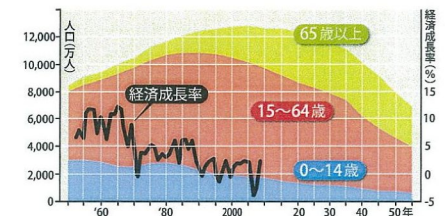
18世紀後半に始まった産業革命以降、私たちは未曾有の経済発展を享受してきました。しかし、21世紀中頃には、わが国は人類が経験したことのない超高齢社会を迎えます。日本の人口は1億人を割り、高齢化率3割以上のきわめて歪な構造となります。逆に世界の人口は、開発途上国を中心に現在より20億人以上増えて90億人を超えると国連は予測しています。このまま推移すれば、世界規模の食糧不足、水不足が予想され、食糧自給率40%程度(熱量ベース)、エネルギー自給率4%に過ぎない日本は死活問題に直面しかねません。

また一昨年3月の東日本大震災と福島第1原子力発電所事故は、日本が災害列島であることを再認識させるとともに、原子力エネルギーに依存した社会の脆弱さを見せつけ、東京一極集中の危うさを突きつけました。

私たちの未来には、大きな壁が立ちはだかり、不安と動揺に満ちあふれています。しかし、未来の不透明さに臆するのではなく、自らが主体となって考え、行動することによって未来を切り開いていかなければなりません。

京都の行政、産業、大学、文化芸術、メディアの代表らで構成する懇話会はこの3年間、超高齢社会や環境問題、防災・減災対応、エネルギー問題などを踏まえて30年後の京都像を探り続けてきました。

京都は、千年以上にわたって都であり、日本文化のふるさとでもあります。伝統産業から先端産業まで、さまざまな産業を輩出するポテンシャルを擁し、大学が集積して内外から多くの学生、研究者が集い、切磋琢磨する風土があります。私たちは、京都の持つ力を十分に引き出し、さらに質の高い洗練された30年後の姿を「京都ビジョン2040」としてまとめました。府民、市民のみなさんが活発に意見を交わし、取り組んでいくための提案です。府民、市民一人ひとりが未来に積極的にいかかわることで、世界を先導する未来を、京都から創造できると私たちは確信しています。



■日本の人口構造と経済成長率

日本の人口は21世紀初頭に減少に転じ、このままでは2050年までに、2000年比で3割減となります。高齢化も進み、3人に1人が65歳以上となります。かたや経済成長は継続的に低下してきました。少子高齢化は、やがて世界中に現れる現象で、いままそ新たな発展モデルが必要とされています。

【出所】人口統計資料(平成25年 国立社会保障・人口問題研究所) GDP成長率(世界銀行)

■京都の未来を考える懇話会

2013年5月31日

京都府知事	山田 啓二
京都市長	門川 大作
京都商工会議所会頭	立石 義雄
京都府商工会議所連合会会長	
京都大学総長	松本 紘
京都府観光連盟会長	柏原 康夫
京都市観光協会会長	
華道家元池坊次期家元	池坊 由紀
京都新聞社会長兼社長	白石 方一





世界交流首都・京都へ

私たちは、30年後の京都の「ありたい姿」として「世界交流首都・京都」を提案します。人と人との交わりこそが価値を生み出します。日本文化の中枢として、知や精神の交流、人と人との交流、文化や産業の大交流を創り出し、活気と創造性にあふれる京都をめざします。

京都は、世界でも例のない長期にわたる都として栄えてきました。その質の高い暮らしを守りつつ、人々の個性や価値観に応じて就業、学習、研鑽できる環境を整備します。国籍、世代を問わず、一人ひとりの生きる喜びを追求し、世界中の人々の心を満たすまちを実現します。

このビジョンを達成するために①世界の文化首都・京都、②大学のまち・京都、③価値創造都市・京都、の3つの柱を提案します。

世界の文化首都・京都

皇族の方を京都にお迎えし、日本文化の裾野を京都から拡大して、多様な人材が活躍する文化のまち

●双京構想の実現

(皇室の弥栄のために、京都にも皇族の方にお住まいいただき、東京との双京を実現する)

●日本文化の中枢都市

(文化庁、観光庁の機能を担い、日本文化の継承と発展を支え、観光分野でも日本をけん引する)

●美しい街並みの保全と創造のまち

(千年の古都と新たな活力を創造する未来都市が共存し、世界の人々が憧れ集うまちを創る)

●クール京都の実現

(文化関連産業で世界のトップブランドを確立する)

大学のまち・京都

京都全体をキャンパス化し、世界中から集う学生・研究者・芸術家や地域住民など、あらゆる人々が活発に交流し、社会課題を解決するとともに、新たな知見を生み出す大学のまち

●魅力的な学部・大学院教育

(リーディング大学院など多様で個性的な大学の教育環境が充実し、世界で活躍する人材を輩出する)

●大学ユートピア特区

(公的施設の無料化や税制優遇など、理想的な教育・研究・起業環境が整備されたまちを創る)

●留学生5万人の実現

(多くの留学生が日本文化に触れながら暮らし学べる、京都の特色を生かした施設や住環境などを整備する)



価値創造都市・京都

時代の変化の先頭に立ち、知恵と技術で幅広い分野で価値を創造し続け、世界の産業と生活革新をリードするイノベーションの都

●京都イノベーションベルトの形成

(京都市桂から学研都市一帯を未来型新市街地として整備する)

●知恵産業のまち

(人々の幸福を志向し、地域内外の資源や知恵を生かした価値のある製品やサービスを創造する企業を輩出する)

●原子力エネルギー・ゼロの京都

(地産地消型エネルギーの普及と省エネ・創エネ技術で循環型社会を実現する)



交流の好循環を支える地域基盤

高速交通などにより海外や地方からのアクセスを飛躍的に向上させるとともに、街なかでの人々の快適な往来を可能にする交通網や情報網を整備し、「世界交流首都」の実現を支えます。





世界の文化首都・京都

日本で最も文化資源の多い京都には、文化を切り口に新たな時代を切り開く大きな可能性があります。日本文化の裾野を拡大し、伝統文化からサブカルチャーまで多彩な人材が活躍する国際的な文化首都をめざします。同時に日本の首都機能の双眼化を図る中で、皇族の方を京都にお迎えするとともに、文化庁、観光庁の京都移転を実現します。

●双京構想の実現

(皇室の弥栄のために、京都にも皇族の方にお住まいいただき、東京との双京を実現する)

●日本文化の中核都市

(文化庁、観光庁の機能を担い、日本文化の継承と発展を支え、観光分野でも日本をけん引する)

●美しい街並みの保全と創造のまち

(千年の古都と新たな活力を創造する未来都市が共存し、世界の人々が憧れ集うまちを創る)

●クール京都の実現

(文化関連産業で世界のトップブランドを確立する)

◆双京構想の実現

東日本大震災は、日本が災害列島であることを私たちに再認識させました。なかでも東京一極集中の社会構造の脆弱さが指摘され、「首都機能の双眼化」が課題となってきました。

その中で京都は、文化首都の役割を担うにふさわしい歴史と環境を備えています。国指定文化財や美術工芸品の多さは群を抜き、文化を支える技術者も多く、名実ともに日本文化のふるさとと言えるでしょう。また宗教都市として仏教各宗派の本山の多くが京都に集中しています。

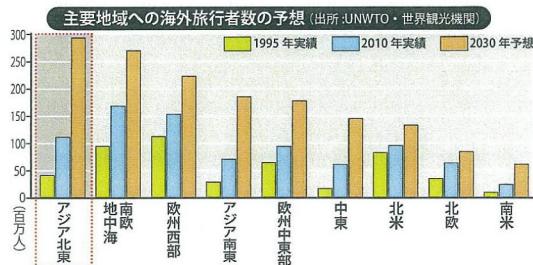
日本の大切な皇室の弥栄のために、東京だけでなく、京都に皇族の方にお住まいいただくことを願う双京構想を実現します。

◆文化庁、観光庁の京都移転

日本を代表する文化の歴史的集積、創造力を生かした「文化芸術立国」を推進し、世界の人々が必ず訪問したい観光地をめざすため、京都への文化庁、観光庁移転を進めます。

文化の厚みのある京都は、外国人訪問者数（人口10万人当たり）が全国1位です。世界の海外旅行者数は今後も伸び続け、やがて北東アジアが最も多くの旅行者が訪れる地域になります。観る観光だけでなく、体験する観光が求められてきたように、観光へのニーズはより高度化する傾向にあり、本物との出会いや発見などが求められます。他の都市ではあり得ない経験や高品質の観光を提供できる体制を整えます。

また京都にはゲームコンテンツの世界的企業やマンガミュージアム、日本映画発祥の地・太秦などサブカルチャーの拠点が数多くあり、こうした資源（コンテンツ）を産学公の連携で活用し、地元産業の活性化や観光振興に役立てます。



大学のまち・京都

京都全体をキャンパス化し、学生同士や住民、企業、研究機関、芸術家などあらゆる人々が活発に交流、連携して価値を創造するとともに、社会課題を解決する大学のまちをつくります。最高の教育、研究、起業環境により、世界中から優秀な学生や研究者を集めます。

●魅力的な学部・大学院教育

(リーディング大学院など多様な個性的な大学の教育環境が充実し、世界で活躍する人材を輩出する)

●大学ユートピア特区

(公的施設の無料化や税制優遇など、理想的な教育・研究・起業環境が整備されたまちを創る)

●留学生5万人の実現

(多くの留学生が日本文化に触れながら暮らし学べる、京都の特色を生かした施設や住環境などを整備する)

◆知を触発する京都の風土

京都は千年の都であり、長らく政治、経済、文化の中心地でした。学問への尊敬の念が強く、平安時代には大学寮が設けられ、室町時代には「五山文学」が隆盛、江戸時代には「堀川学校」を開いた伊藤仁斎、「石門心学」の創始者・石田梅岩などを輩出しました。朝廷、寺社、町衆まで町ぐるみで学問を育ててきた歴史があります。

大学と連携して最先端の技術を生み出す世界的企業も少なくなく、創造性を触発する風土が京都にはあります。

◆国際的な大学のまち・京都へ

多数の大学が集積する京都は、人口当たりの学生数が全国1位で、海外からの留学生も多く受け入れています。アジアなどの新興国では人口が大きく増加することから、若い国々からの留学生の受入数を大幅に伸ばすことが、京都の活力創出にとって不可欠です。

◆社会課題を解決する知の追求

現代社会が抱える複合的な課題を解決していくリーダーを育成するためのリーディング大学院や、創立者の理念などに基づき、それぞれの大学が新たな挑戦を行うことで、個性豊かな教育環境を実現し、世界で活躍する人材を輩出していきます。

主要都道府県の人口当たりの大学生と異文化滞在者の数

	大学生(うち留学生)	異文化滞在
東京都	5,543人(519人)	32.5人
神奈川県	2,276人(144人)	12.5人
愛知県	2,582人(125人)	14.1人
京都府	6,116人(276人)	41.2人
京都市	9,175人(379人)	—
大阪府	2,578人(170人)	13.7人
全国平均	2,255人(157人)	13.8人

※人口10万人当たりの人数(2010年)

※異文化滞在とは、教授、芸術、宗教、研究、文化活動を目的とする登録外国人数。

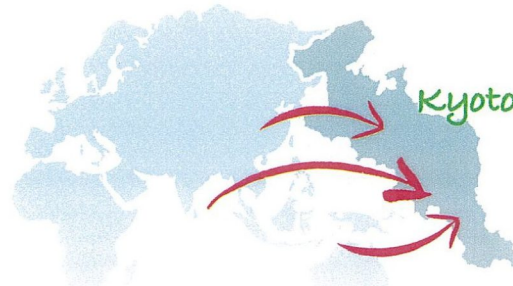
※以下の資料を基に事務局にて算出

【資料】国勢調査(平成22年度、総務省)

学校基本調査(平成22年度、文部科学省)

学校基本調査(平成22年度、京都市総合企画局)

登録外国人統計(平成22年度、法務省)





価値創造都市・京都



伝統産業から最先端技術まで、京都産業の多様性は群を抜いています。多様な事業者、地域内外の資源、人々の知恵などを適切に関連づけ、新たな商品、事業などを創出する「知恵産業」を確立します。最小の資源利用で付加価値や快適性などを最大化できる経済、社会を実現し、エネルギー消費削減と経済成長を両立させます。

●京都イノベーションベルトの形成

(京都市桂から学研都市一帯を未来型新市街地として整備する)

●知恵産業のまち

(人々の幸福を志向し、地域内外の資源や知恵を生かした価値のある製品やサービスを創造する企業を輩出する)

●原子力エネルギー・ゼロの京都

(地産地消型エネルギーの普及と省エネ・創エネ技術で循環型社会を実現する)

◆未来型新市街地とスマートシティの実現

「桂イノベーションパーク～京都市南部～けいはんな学研都市」を一つの都市とする未来型新市街地を形成し、産学公の連携やベンチャー企業の集積を図って革新的な商品、サービスを生み出すための交流拠点をめざします。一方、京都市の都心部では、既存インフラを活用し、コンパクトなまちづくりをめざし、エネルギーの有効活用や環境問題に対応した「次世代環境都市・スマートシティ」を実現します。

◆エネルギーのパラダイムシフトを達成

温暖化対策で具体的な数値目標の国際合意が初めて得られたのが1997年のCOP3京都会議であり、京都は先進的に環境問題に取り組む都市として高い知名度があります。高い技術力で省エネと再生可能エネルギーを創出して「原子力エネルギー・ゼロの京都」を実現し、エネルギーのパラダイムシフトを全国に先駆けて成し遂げます。

◆自然と共生する京都

主要政令指定都市の中で京都は、可住地面積が小さく、森林面積比率が最も高いという特徴があります。風や光を有効に生かす京町家にみられるように、自然と共生し、季節の微かな移ろいを楽しむ暮らしをつくってきました。自然との共生は京都の大きな魅力であり、最小の資源で最高の価値をつくることにつながります。



【出典】京都市「環境未来都市提案書」



交流の好循環を支える地域基盤

南北に長い京都府は、各地域に個性があり、大学や研究機関、企業も分散立地しています。創造の基盤をより強固にするために、交通インフラを整備して、交流を加速する地域構造をつくりあげます。関西国際空港とのアクセス向上やリニア中央新幹線の「京都駅ルート」の推進、京都舞鶴港を門戸とした日本海側からの海外交易・交流ネットワークの整備など国内外のアクセスを容易にするとともに、LRT（革新的路面電車）やBRT（バス高速輸送システム）などを導入し、高い利便性を備えた交通網を整備します。

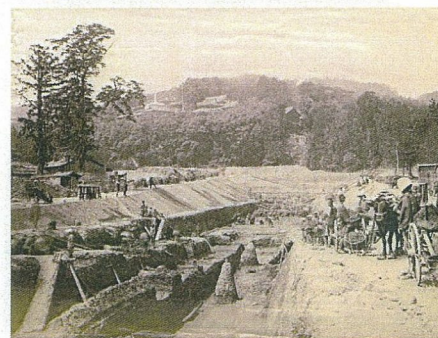
◆京都ならではの交流の活性化

多くの来訪者を受け入れ、多様な価値観を許容しながら、一方で、地域をあげて祭りや行事を行うという絶妙な感覚が京都にはあります。さりげなく、かつ温かみのある交流は、京都ならではのものです。交通インフラの整備により、人々の活動の場を広げていくことで、さらに交流が活発になるはずだ。

◆明治期に学ぶ地域基盤づくり

明治維新と東京奠都により、人口が大きく減少するなど、明治初期の京都は混乱に陥りましたが、外からの知見も積極的に取り入れ、未踏の分野に次々に挑戦してきました。そのひとつが琵琶湖と京都市内を水路で結ぶ琵琶湖疏水事業で、当時の府の年間予算の2倍の資金が投じられました。

日本最初の商業発電、水道、水運、電車で構成された事業は、地域の産業や生活を支える基盤となり、再び京都に活気をもたらしました。まさに先見の明による、思い切った地域基盤づくりだったのです。



【出典】京都市上下水道局・田邊家資料

これからは、人の交流こそが未来を切り開く源泉になると考えられます。「世界交流首都・京都」を実現するために、交流を加速する基盤整備は不可欠です。

